

藤沢久美



# 誰がための投信

ふじさわ・くみ…シンクタンク・ソフィアバンク副代表。国内外の投資運用会社勤務を経て、1996年に日本初の投資信託評価会社を起業。99年同社を世界的格付け会社に売却後、2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、副代表。03年社会起業家フォーラム設立、副代表。07年「ヤング・グローバル・リーダー」に選出。法政大学大学院客員教授、金融審議会委員など公職も多数兼務。著書は『なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか』、『投資信託主義』など多数。

し、そのチャンスであると言える。

## 業界に求められること

投資信託は、個人の資産運用ツールであるが、一方で、現在のように日本経済をリードしてきた輸出産業が打撃を受けているときに、国民を挙げて、次の日本をリードすべき産業のサポートをするためのツールとしても、活用するべきではないかと思う。その意味でも、同ファンドは、国民に経済を新たにけん引するべき産業や企業に対する理解と気付きを与えると同時に、それらを応援する機運を高めるきっかけともなる。

当然、こうした動きには政策的なサポートも必要であり、選挙のある今年は、こうした産業政策についても、ファンドの存在を機に、政治家と選挙民であるわれわれが議論を始めることになれば、さらに意義深いだろう。

国民一人ひとりが、国や経済を考えるきっかけをつくる役割を投資信託が担うことになれば、自然に貯蓄から投資への流れも起るだろうし、国民不在の政治も修正される方向に向かうだろう。

投資信託をいかに活用するかは、個人の資産形成の枠を超えて、日本の未来を支える役割までを見据えて考えることもまた、業界の役割ではないだろうか。

## 投資信託の活用が日本の未来を支える

久しぶりに明るい気持ちになれるテーマファンドが誕生した。トヨタ・ハイブリッドカー・ファンドだ。これまでは、インターネットやバイオなど、どちらかと言えば、海外がリードしている産業をベースにしたものが多かったが、今回は、日本が世界をリードしている技術がテーマになっている。さらに、ハイブリッドカーを支える技術は、エンジン自動車の技術だけではなく、電気自動車を支える技術も含まれている。

### 米国債の見返りに…

当面の世界標準が、電気自動車になるのか、ハイブリッドカーになるのかは、いまだ不明だが、ガソリンをベースにしたエンジン型自動車から環境配慮型の自動車への移行は不可避であるし、今のところ、日本の自動車に関する環境技術は、世界でトップクラスであり、再び日本のモノづくりが世界に貢献できる希望の持てる分野である。

折しも、米国では、オバマ新大統領によって、グリーン・ニューディール政策が掲げられた。この政策を実行するための資金は、おそらく、日本や中国による米国債の購入に依存するところも大きいだろう。経済的に米国を支える役割を日本が担うのであるならば、こうした日本の環境配慮型の自動車技術を、米国で積極的に活用してもらうよう交渉することが重要である